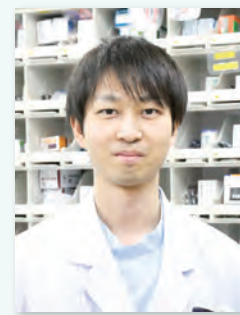


血をサラサラにする薬について



-おくすりの話 vol.22- 薬剤部 三木 亮介

みなさま、あけましておめでとうございます。
さて、冬も本番となりだいぶ気温が下がってまいりました。この季節には心筋梗塞などの心疾患の発生率が上昇すると言われています。今まで何も薬を飲んでいなかった状態から、急に血をサラサラにする薬を処方された方もいるかもしれません。
そこで今回はいくつもある血をサラサラにする飲み薬についてお話したいと思います。

血をサラサラにする薬は大きく分けて、**抗血小板薬**と**抗凝固薬**に分類されます。それぞれ効き方は違いますが、すべてに出血しやすくなるという副作用があるので普段の生活の中で注意をしなければなりません。そのほかにも各薬剤によって注意すべきポイントがあります。

抗血小板薬とは

その名の通り、血液の構成成分である血小板の力を抑制します。血小板はケガをした時などに集まり出血を止める働きがあります。普段目には見えませんが体の中でもこのように血小板が集まって血の塊（血栓）ができてしまうことがあります。これが原因で脳梗塞や心筋梗塞を引き起こすことがあります。抗血小板薬を服用することでこれらの疾患を予防します。

抗血小板薬
2種類を
組み合わせて服用することもあります。



抗凝固薬とは

私たちの体には、集まった血小板をさらに強固に接着する機能が備わっています。これを凝固系と呼び、抗凝固薬はこの働きを抑制します。抗凝固薬として古くからワーファリン®という薬が服用されてきました。凝固系を進めるビタミンKという物質を抑えることで作用を示します。しっかりとした管理をすればとても有用な薬剤ですが、効き方の個人差が大きかったり、食べ合わせの悪い食品があるなどの問題点もあります。

近年ではワーファリン®の問題点を改善した、ビタミンKを介さない新規の抗凝固薬（NOAC）が4種類開発されました。しかしながら、採血のデータが効果の指標になりにくかったり、薬剤が高価であったりするため現在どちらの薬剤も使用されています。



出血性の副作用

出血に注意すると言われても、包丁での切り傷や転倒に注意するくらいしか想像できないかもしれません。血が出ないように生活することも大切ですが、薬が効きすぎている状態をご自身で早期発見することも重要です。脳出血などの重大な出血を防ぐことができます。以下の症状が出たら、必ず医師又は薬剤師にご相談ください。



- ・ 突然鼻血が出るようになった
- ・ 尿や便に血液が混じるようになった
- ・ 歯磨きをするとすぐに歯茎から血が出るようになった



また、手術や抜歯をする前にこれらの薬剤の中止が必要になることがあります。服用している場合は必ず医師又は歯科医師に申し出てください。

食品との相互作用について

特に注意が必要とされているのがワーファリン®です。ビタミンKを多く含む食品（納豆、クロレラ、青汁）を摂取することで、ワーファリン®の効果が妨げられます。服用中は絶対に摂取は控えてください。ほうれん草などの緑黄色野菜もビタミンKを多く含むとされています。これらを一時的に大量摂取することも控えてください。また、シロスタゾール、プレタール®はグレープフルーツジュースの摂取で効果が強く表れることがあります。出血リスクを高めるため、服用中の摂取は控えてください。このほかにも健康食品やサプリメントなどの飲み（食べ）あわせが悪いものがあります。



質問やご不明な点がありましたら、いつでも薬剤師へご相談ください。

